

学力向上だより “継続と徹底”

第80号 R3.7.27 (火)

佐賀県教育庁教育振興課

夏季休業に入り、各学校においては児童生徒の学力向上に向けた校内研修会等を計画・実施している時期ではないでしょうか。これまでに実施した教科研修会を御紹介しますので、是非、今後の取組の参考にしてください。

全国調査を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた中学校国語研修会 6月25日(金)

講師：黒田 諭 氏 (国立教育政策研究所 教育課程研究センター 学力調査官)

【講演の概要】

全国学力・学習状況調査の全体的な分析結果や傾向を知るだけでなく、各学校において生徒の実態を分析し、指導事項を意識しながら身に付けるべき資質・能力を単元や授業の中で構成していくことが重要である。また、誤答の累計表、SP表等を指導において活用し、授業場面に生かしていくことも大切である。



★指導の改善・充実に向けた ここがポイント★

- ・ **年間計画**は、**どの時期に、どの資質・能力を指導するのか**を意識して作成し、「**評価し改善する**」という過程を経ていくことが大切である。
- ・ **学習指導**は、**指導と評価の一体化**を意識し、**全国学力・学習状況調査の結果等を活用**しながら、生徒の実態に正対したものでなければならない。
- ・ 指導事項を指導するために、国語科における言語活動とはどのようなものかをイメージしながら、**効果的な言語活動**を設定した授業を構想することが大切である。
- ・ **評価規準・評価方法・評価の時期**を明確にした取組を行っていく必要がある。
- ・ **「努力を要する」状況の生徒への手立て**を具体的に考え、**一人一人の実態に応じた手立て**を講じていくことが大切である。

【参加者の感想】

- ・ 「分析」と「指導」をキーワードに、学習状況調査などの結果をどのように分析し、日ごろの授業に生かせばよいのかを具体的に示してあり、すぐに活用できるものだったので大変ありがたかった。
- ・ 生徒の実態に応じて指導計画を「評価・改善」する必要があること、学調の問題の課題が、指導事項の何に当たるのか、どの教材であるのかという視点が必要であることが分かった。

全国調査を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた中学校数学研修会 7月1日(木)

講師：伊吹 竜二 氏 (国立教育政策研究所 教育課程研究センター 学力調査官)

【講演の概要】

調査問題では、数学的に問題発見・解決する過程として「Ⅰ 事象における問題を数学的に捉えること、Ⅱ 問題解決に向けて、構想・見通しを立てることで焦点化した数学の問題を解決すること、Ⅲ 問題解決の過程や結果を振り返って考察すること」の3つの局面がある。



★指導の改善・充実に向けた ここがポイント★

調査の成果と課題を把握・検証して、改善に取り組むためには、「1. 調査結果の分析 2. 具体的な改善の取組の決定 3. 取組結果をいつ、どのように検証するのかを決定 4. 取組の実施 5. 取組結果の検証」をしていくことが大切である。

① 計画的に行う

- ・ **1年間の行事予定の中に分析等を行う時期を組み込む**
- ・ **1年間の計画が確実に実施されるように学期や月、週単位でも確認をする**

目的を明確にする

② 組織的に行う

- ・ **学校内の組織への位置付け**
- ・ **課題や分析結果を共有して、教科共通の課題は全体で取り組む**

【参加者の感想】

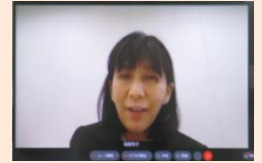
- ・ 全国学力調査を授業に生かす方法、説明するときのポイント(解答類型、評価規準)など、実際の問題を基に解説があったのでとても参考になった。特に、授業の中で、小学校でやってきたことを意識して、生徒に問いを投げかけることが必要だと感じた。
- ・ 数学の問題発見・解決における局面から数学的なプロセスにつながっていることを確認することができた。

全国調査を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた小学校算数研修会 7月8日(木)

講師：稲垣 悦子 氏 (国立教育政策研究所 教育課程研究センター 学力調査官)

【講演の概要】

調査結果の正誤だけではなく、解答類型を参考にしながら、児童のつまずき等を分析することで、どのような指導が必要かを考え、授業を工夫していくことが大切である。調査対象学年だけではなく、「学習指導要領における領域・内容」から該当する学年を確認し、系統性を意識することで、全学年を見通した授業を展開するなど学習の計画を工夫することができる。



★指導の改善・充実に向けた ここがポイント★

- ・ **つまずきは、成長のチャンス！ 失敗は、成功への第一歩！**
- ・ つまずきが、反応例として15年分つまっている**全国学力・学習状況調査は、宝の山**である。
- ・ つまずききっかけは、その単元、その学年だけではない。**学年、単元のつながり**を捉え、どの学年とつながっているのか、教材研究をしていくことが重要である。
- ・ **学習指導要領**に基づき、**授業のメッセージ**を発信していくことが大切である。
- ・ 調査結果の○×だけでなく、**なぜ○だったのか、なぜ×だったのか、どこでつまずいているのか**、丁寧に子どもの実態をみていくと授業改善のポイントが見えてくる。
- ・ **数学的な見方・考え方を働かせ、数学的に考える資質・能力を育成すること**を目指す。

【参加者の感想】

- ・ 全国調査の見方や結果からどのように考察するとよいかについて具体的に単元や問題を提示しながら説明していただけたことが参考になった。
- ・ 子どもたちが問いをもつためにどういう手立てが必要か、学習状況調査を普段の授業にどう生かすかなど、今後の授業づくりに役立つことをたくさん学ぶことができた。
- ・ 話し合いや振り返り等、「何のためにするのか」ということが大切であり、何のためにしているのかということを子どもと共有化しなければならないことが分かった。

小中連携による学力向上推進地域指定事業の公開授業の予定

今年度の「小中連携による学力向上推進地域指定事業」における研究指定校の公開授業を実施いたします。今年度も感染症の影響等を考慮し、基本的に各中学校区内での公開としています。今後、研究実践の様子については、随時、学力向上だよりでお知らせしていく予定ですので、各学校における学力向上に向けた取組の参考にしてみたいかがででしょうか。

7月9日現在

【公開授業予定日】

9月28日(火) 東山代小
29日(水) 東脊振中
10月12日(火) 松浦小
14日(木) 脊振中
27日(水) 脊振小
11月 2日(火) 国見中
5日(金) 思斉中、思斉小
11日(木) 嬉野中
12日(金) 東陵中
16日(火) 西唐津中
17日(水) 富士小、大川小
18日(木) 西唐津小
19日(金) 嬉野小
25日(木) 轟小
26日(金) 二里小
12月 9日(木) 大草野小
15日(水) 富士中

1月28日(金) 玄海みらい学園
11月予定 東脊振小
期日未定 鳥栖西中、麓小、旭小

【研究協力校】 教育研究発表会

11月 4日(木) 佐賀大学教育学部附属小学校
11月 5日(金) 佐賀大学教育学部附属中学校



◎ 公開授業についての詳しい日程等については、各学校にお問い合わせください。

校内研修の充実に向けた取組のヒントがつまっています！





「全国学力・学習状況調査の結果」を活用し、中間評価を行いましょう

今年度の全国学力・学習状況調査は5月27日（木）に実施されました。調査結果については、各学校においては8月27日（金）に Webシステムにて提供される予定になっています。

調査結果の提供及び公表がされましたら、全国や県の結果や傾向を把握するだけでなく、【問題別調査結果】から正答率、無解答率を設問ごとに分析して、自校の児童生徒が苦手としている学習内容を確認したり、【問題別（解答類型）調査結果】から誤答の傾向を把握したりして、2学期以降の授業改善にお役立てください。

他にも正答数の分布や質問紙の結果等の資料もありますので、全職員で確認し、児童生徒のため、有効に御活用ください。

令和4年度 全国学力・学習状況調査について

- 1 実施予定日 令和4年4月19日（火）
- 2 対象学年と教科

小学校6年生：国語・算数・理科・質問紙 中学校3年生：国語・数学・理科・質問紙

※ 来年度は、3年に1回の理科の調査も行われます。前回の平成30年度の調査結果から課題が見られた設問の概要を紹介し、夏季休業中に、調査問題（国研のHPに掲載されています）、自校の調査結果を改めて確認するなどして、2学期以降の授業に生かしましょう。

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果【理科】

【小学6年】 正答率が低かった設問

設問番号	出題の趣旨（評価の観点）	枠組み	問題形式	正答率		無解答率	
				県	全国	県	全国
2（3）	【流れる水の働き】 より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できる（科学的な思考・表現）	主として「活用」に関する問題	記述式	19.1	20.1	0.6	1.0
4（4）	【食塩水を熱したときの食塩の蒸発】 実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述できる（科学的な思考・表現）	主として「活用」に関する問題	記述式	36.5	35.9	4.7	8.9
3（4）	太陽の1日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を目的に合ったものづくりに適用できる（科学的な思考・表現）	主として「活用」に関する問題	選択式	39.7	41.9	0.4	0.6

【中学3年】 正答率が低かった設問

設問番号	出題の趣旨（評価の観点）	枠組み	問題形式	正答率		無解答率	
				県	全国	県	全国
9（2）	植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できる（科学的な思考・表現）	主として「活用」に関する問題	記述式	19.2	19.4	20.6	21.4
3（1）	風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用できる（科学的な思考・表現）	主として「活用」に関する問題	選択式	37.7	37.5	0.3	0.2
4（2）	炎の色と金網に付くススの量を調べる実験を計画する際に、「変えない条件」を指摘できる（科学的な思考・表現）	主として「活用」に関する問題	記述式	43.9	44.1	15.9	15.5

※ 平成30年度調査までは、主として「知識」に関する問題 と 主として「活用」に関する問題に分けられていました。

自然事象についての基礎的・基本的な知識と理解を問う問題は正答率が高く、結果を見通して実験を構想したり、観察・実験の結果を考察したりする問題で正答率が低い傾向が見られました。





理科の“つまずき”はココ！

※ 到達状況の「▼」は、要努力の状況であることを表しています。

設問番号	出題の趣旨（出題方法）	県正答率	県無解答率	十分達成	おおむね達成	到達状況
中3 問9(2)	植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できる（記述式）	19.7	20.5	60.0	40.0	▼

※「県正答率」は、文科省結果公表前の独自集計の数値

9 健一さんは、乾燥した部屋に鉢植えの植物を置くと湿度が上がって、インフルエンザの予防に効果があると知り、科学的に探究して実験ノートにまとめました。
(1)と(2)の各問に答えなさい。

実験ノートの一部

2月11日(日) 天気 曇り 気温 22℃

課題
密閉した透明な容器の中に鉢植えの植物を置くと、湿度は上がるのだろうか。

実験
容器の中の湿度と湿度を測定する器具

結果
AとBの容器の中の湿度は22℃で変わらなかった。

時間(時間)	0	1	2	3	4
湿度 A 植物あり (%)	37	67	87	88	88
湿度 B 植物なし (%)	38	39	39	38	38

考察
実験の結果から、鉢植えの植物を入れた容器の中の湿度は上がるという。

新たな疑問
水蒸気が植物から出るだけで、湿度が37%から88%に上がるのだろうか。

(1) 下線部の植物の働きを何といいますか。下のアからエまでの中から1つ選びなさい。
ア 光合成 イ 呼吸 ウ 気孔 エ 蒸散

(2) 健一さんは【新たな疑問】をもち、下線部以外の原因を考えました。考えられる原因を1つ書きなさい。

植物によって加湿できるかどうかを科学的に探究するという設定。植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘する設問。

★指導のポイント★

「構想する力」を身に付けさせるために、自然の事物・事象についての疑問を基にして課題づくりを行ったり、次の課題を見出させたりしましょう。そして、仮説をたてた後に、実験を計画することで、児童生徒がどのような実験を行えば、自分の仮説が正しいと言えるかを考えるような学習活動を授業に位置づけましょう。

平成30年度全国学力・学習状況調査 解説資料【中学校 理科】

問9(2)

【趣旨】

蒸発と湿度に関する知識と、問題解決の知識・技能を活用して、植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘することができるかどうかをみる。

■学指導要領における分野・内容

第2分野 (4)気象とその変化

ア 気象観測

(ア) 気象観測

校庭などについて気象観測を行い、観測方法や記録の仕方を身に付けるとともに、その観測記録などに基づいて、気温、湿度、気圧、風向などの変化と天気との関係を見いだすこと。

■評価の観点

科学的な思考・表現

解答類型

問題番号	解答類型	正答
9 (2)	(正答の条件) 次の(a)、(b)及び(b')又は、(a)及び(b)又は、(a)及び(b') 又は、(a)を満たしているもの。 (a) 土(鉢、皿)の場所について記述している。 (b) 水蒸気という語句を使って湿度が上がる仕組みを記述している。 (b') (水)の蒸発という語句を使って湿度が上がる仕組みを記述している。	
1	(a)、(b)及び(b')を満たしているもの。 例 土(鉢、皿)から水が蒸発して水蒸気となった。	◎
2	(a)及び(b)を満たしているもの。 例 土(鉢、皿)から水蒸気が出た。	◎
3	(a)及び(b')を満たしているもの。 例 土(鉢、皿)から水が蒸発した。	◎
4	(a)を満たしているもの。 例1 土(鉢、皿) 例2 土(鉢、皿)から出た(何が出たか記述していない)。 例3 土(鉢、皿)が乾いた。	○
5	(b)を満たしているもの。 例1 水蒸気 例2 水蒸気が出た(出た場所を記述していない)。 例3 植物から水蒸気が出た。	
6	(b')を満たしているもの。 例1 蒸発 例2 水が蒸発(蒸発した場所を記述していない) 例3 植物から水が蒸発	
7	(a)、(b)及び(b')を満たさず、「湿度」という語句を使って湿度の変化を記述しているもの。 例 箱の中の湿度が変わった。	
8	(a)、(b)及び(b')を満たさず、「温度(気温)」という語句を使って記述しているもの。 例1 温度(気温)が変わらない(一定)。 例2 温度(気温)が上がった(下がった)。	
99	上記以外の解答	
0	無解答	

佐賀県の生徒において最も多かった誤答



家庭学習の充実に向けて考える 唐津地区学力向上フォーラムが開催されました



6月13日(日)玄海町町民会館において、唐津地区の学力向上についての説明や「家庭学習」についての学校からの取組報告、講演が行われました。当日は、保護者、教職員、教育関係者など、約220人の参加者がありました。

**【講演】「家庭学習」で育てよう！
子どもの学力・夢・希望！ ～チームで作る家庭学習ノート活用法～
講師 スタジオ☆くみこ 代表 菅原 久美子 氏**



菅原先生は、家庭学習アドバイザーとしてだけでなく、ソプラノ歌手、日本サービスマナー協会認定マナー講師など様々な活動をされています。今回の講演においては、家庭学習のポイントや子どもへの関わり方について具体例を紹介しながら教えていただきました。

- 家庭学習は「毎日続けること」が大切です。そのためには、学習の内容だけでなく、環境づくり(姿勢、文具、机の上の整理、空間づくり)にも気を付けましょう。
- 家庭学習ノートは、子ども・保護者・教師の交換日記のようなもの。学習の成果を記録して、それぞれの気持ちを伝えるツールにしましょう。ほめ言葉は子どもの最大のモチベーションです。
- 1日の家庭学習の計画を立てることは、習慣化の第一歩です。計画表を作るときは、子どもと保護者が相談しあってきめることが大切です。まずは、学校、習い事、睡眠など固定の予定を入れてみましょう。そうすることで、家庭学習の時間が見えてきます。

【報告及び実践発表】

(1) 唐津地区の学力向上について

○西部教育事務所北部支所 指導主任 森田 祐香

- ・学習指導要領では、「知識の習得」から「生きて働く知識の活用」への転換が大切であり、カリキュラムの改善を図ることも求められている。
- ・学校と家庭が連携交流して、子どもたちがそれぞれの「納得解」「最適解」を見出していけるように支えていくことが大切である。

(2) 「家庭学習の充実」による学力向上への取組

○玄海みらい学園 指導教諭 米倉 智久

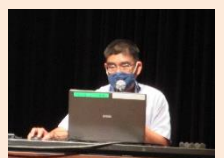
- ・保護者との2者面談の時期に合わせて「自学ノート展」を開催している。保護者だけでなく子どもたちも友だちの自学ノートを見て参考にする姿が見られる。
- ・前期課程・後期課程の先生が一緒になって、指導案の検討をしたり、授業後の意見交換を行ったりしている。

○唐津市立切木小学校 教諭 轟田 卓司

- ・自分の学習状況を考慮した学習課題を、自分で決めて計画的に家庭学習をする「のびっこ自学」に取り組んでいる。
- ・授業と家庭学習との関連をもたせるように、パーソナルワーク(一人学び)を家庭学習で行う取組を行っている。

○唐津市立厳木中学校 教諭 山添 加奈

- ・「Q-Friends」(次の日の授業連絡、日記、家庭学習のためのプリント集)により、学習習慣の定着が見られるようになったり、生徒に家庭での過ごし方についてアドバイスができたりしている。
- ・「Q-Friends」と「Q-TIME」(帰りの会の10分間の学習時間)、「Q-TEST」(Q-TIMEの隔週で行うテスト)を関連付けながら取り組んでいる。



なお、出席者からの主な感想は以下のとおりです。

- 勉強というのは、子どもだけではすべき内容や方法が分からないと思うので、親も一緒になって家庭全体で考えることが大事だと思いました。(保護者)
- 今回聞いた各学校の実践を個人で取り組むのではなく、学年全体や学校全体で共通理解・共通実践することが重要だと思いました。(教職員)
- 家庭学習について子どもと一緒に考えたい。まずはコメント欄を記入したいと思いました。(保護者)
- 子どものやる気を継続することに必要なのは「ほめること」であることを再確認しました。(保護者)
- 子ども任せではなく、家庭・学校がしっかりと関わって、家庭学習を充実させていく大切さやポイントが分かったので、これから生かしていきたい。(教職員)